馬酔木通信 42 号

2023年3月

Enjoy!

INDEX

学長からのメッセージ ……2
トピックス ……3
生活未来科 ……4
地域こども学科 ……5
学生・キャリア支援センター ……6
障害学生修学支援センター ……6
教育支援センター ……7
自己点検評価室 ……7
情報メディアセンター ……8
入試・広報センター ……8
図書館 ……9
子育て支援センター ……9
地域・国際連携センター ……10
防災・環境委員会 ……10
学生レストラン鹿野園 ……11
夢の丘SAHOファーム ……11
生活未来科・学生レポート ……12
地域こども学科・学生レポート ……13
留学生の声 ……14
学友会/学長賞 ……15
FD委員会 ……16
SD委員会 ……16
2022年度 奈良佐保の取り組み ……17
奈良佐保の取り組み（新聞掲載）① ……18
奈良佐保の取り組み（新聞掲載）② ……19

Enjoy your campus life!!

奈良佐保短期大学

地域に求められる短期大学であり続けるために

学長　池内　ますみ

日本の短期大学は1950年に発足し、女性の高等教育への進学率が低かった時代に、女性に高等教育への進学機会を提供する機関として貢献してきました。

また、２年という短い期間で専門的・技術的資格を習得することを目的とした教育機関として重要な役割を果たしています。歴史を振り返ってみると、発足当初は女子学生のみを対象としたものではなく、美術工芸、外国語など中堅技術者養成の分野では男子学生の比率が過半数を占めるところもあったようです。

その後短期大学は、学生数、学校数共に女子学生の比率が増加し続け、1960年代後半にかけては家政系の学科を中心に発展していきます。本学も1965年に佐保女学院から家政系の学科を持つ佐保女学院短期大学となりました。

短期大学はその後も資格取得が可能な教育系の学科の設置や、就職時に必要な技術、教養を取得できる人文科学系の学科が多く開設され、女性のための高等教育機関としての社会的な認知を得てきました。

1993年に女子学生数がピークを迎え、その後1995年に四年制大学の女子進学者数が短期大学の女子進学者を上回り、次第に短期大学は学校数、学生数が減少してきています。しかし、短期大学には四年制大学や専門学校とは異なる以下にあげる特長があり、高等学校からの進学率が過半数を超え「ユニバーサル段階」となった高等教育を支えていく重要な責務があると考えます。

短期大学の特長

- ○「短期大学士」の学位を取得でき、4年制大学の3年次への進学が可能である
- ○ 教養科目と専門科目をバランスよく配置し、体系的に編成した教育課程を展開している
- ○ 職業資格の取得と教養に裏打ちされた汎用的職業能力を育成している
- ○ 小規模であるため、少人数教育、担任制度などきめ細かな学生指導ができる
- ○ アクセスしやすい身近な大学として、地域コミュニティに密着し、地元に強い教育研究活動等を展開している
- ○ 国の設置認可と認証評価制度が導入されているため、教育の質が保証されている

これらの短期大学の特長的な教育機能をより伸長させ、我が国の高等教育機関としての位置付けを再構築するためには、短期大学自らが改革に取り組むとともに、それぞれの短期大学の特色に応じて次にあげる機能を強化していくことが求められます。

○専門職業人材養成機能
○地域コミュニティの基盤となる人材養成機能
○知識基盤社会に対応した教養的素養を有する人材養成機能
○多様な生涯学習機会の提供

本学は家政系の被服、食物の専門分野を学ぶ短期大学として出発しましたが、その後時代のニーズに合わせた変遷を遂げ、介護福祉士、栄養士、保育士、幼稚園・小学校教員などの専門職業人材を養成する男女共学の短期大学となりました。

２年間の学生の成長には目を見張るものがあります。実習報告会や卒業研究発表会などで学修の成果を発表している姿を見るたびに、よくここまで頑張ってたどり着いたと感動しています。

卒業後は２年間で学んだそれぞれの専門を活かして社会に出ていきますが、令和４年度卒業予定者の進路状況では、小学校教員、保育士、事務職として９名が公務員試験をクリアすることができました。規模の小さい大学だからこそ、学生一人ひとりと向き合い、学生が目指す「なりたい自分」になれるよう全教職員が一丸となって入学直後からサポートしています。

奈良市内に位置する唯一の短期大学として、今後さらに地域創生・地域活性化に直結する教育研究や地域貢献活動に積極的に取り組み、地域が抱える課題に向き合いながら、地域活動の拠点として情報を発信していきたいと考えます。

海外からの留学生や社会人など多様な学生を受け入れながら、高等教育を受ける機会を広く提供し、教養教育と専門教育のバランスが取れた教育課程、きめ細やかな学生支援による教育を展開し、地域社会のニーズに応える人材を養成していく所存です。

大和鉄道まつり 2022

生活未来科ビジネスキャリアコース　中田　奈月

2022年8月20日(土)と21日(日)の2日間、奈良県最大規模の鉄道イベント「大和鉄道まつり2022」が奈良県の奈良コンベンションセンターで開催されました。

当初の来場者数の想定は2日間で約2000人。しかし実際は2日間で約8000人が来場くださいました。連日メディアでも大きく取り上げられ、大盛況に終わりました。

この奈良県最大規模のイベントに運営スタッフとして携わったのがビジネスキャリアコースの学生です。ビジネスキャリアコースの学修スタイルのひとつにプロジェクト型学習があります。プロジェクト型学習の一環として「大和鉄道まつり2022」に参画。企画段階から大和鉄道まつり実行委員会と連携し、会場運営のためのシフト表作成やブース企画の検討、ステージ発表の原稿作りなどに取り組みました。

7月半ばには大学で大和鉄道まつり実行委員会会議を開催、学生も会議に出席し、来学いただいた大和鉄道まつり実行委員会の皆様とともに、学生スタッフとしての役割やブースやステージに関する意見共有を行い課題について話し合いました。

大和鉄道まつり2022へはビジネスキャリアコースのみならず、食物栄養コースや生活福祉コース、地域こども学科の学生もブース出展やステージ出演で参加。

イベント当日は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、急遽、当初予定していた取り組みの変更を余儀なくされるなどハプニングもありましたが、なんとか2日間を終えることができました。

大和鉄道まつり実行委員長の福原稔浩様はじめ実行委員の方々には大学へ何度も足を運んでいただき、学生に助言をしていただきました。複数の鉄道会社の皆様から「学生の学びにつながるなら」と、多大なご支援とご協力をいただきました。

当日は会場スタッフや来場いただいた方々から、あたたかい励ましの言葉を頂戴しました。何人かの卒業生も声をかけてくれました。

このような大型プロジェクトにかかわれる機会をご提供くださいました皆様に厚くお礼申し上げます。

大和鉄道まつり2022　会場風景

野菜販売

プロジェクト会議

チャギントン体操

福祉交流会

生活福祉コース　島村　真理子

2022年11月20日、今年度も福祉交流会を開催することができました。

福祉交流会は、近隣の福祉事業所を利用されている方々を学校へお招きし、レクリエーションなどを通して楽しい時間をその場にいる全員で共有できる、とても大切な機会です。

当日を迎えるまで、1・2回生が連携しながら準備を進めていきました。ウェルカムボードやバルーンアートなど、昨年を超えるクオリティのものが続々と完成されていきます。

いざ当日、はじめこそ関わるきっかけをつかめない様子もみられましたが、利用者の方の温かい笑顔や同行職員の方からのアドバイスにより、レクリエーションは大いに盛り上がり、最後は名残惜しそうにお見送りをしていました。

参加してくださった利用者の方々からいただいた「ありがとう」「楽しかった」「また来るね」などのお言葉は、学生それぞれの心にしっかり刻まれたのではないかと思います。

福祉交流会を経て、連携・協働の難しさや必要性、関わりの中で生まれる相互作用を実感したであろう学生たちの更なる成長が楽しみです。

生活未来科成果報告会を終えて

食物栄養コース　島村　知歩

2023年2月5日に3年ぶりにならまちセンター市民ホールで生活未来科成果報告会を行いました。

奈良県介護人材確保総合支援事業の一環で第1部は植村牧場代表取締役の黒瀬礼子氏に「共に働き、共に生きる～小さな町の牧童たち～」と題して、牧場運営や商品のこと、障害者雇用の難しさや経営者としての葛藤など幅広い内容についてエピソードを交えながらお話していただきました。

第2部はいよいよ学生たちの発表です。目の前に観客がいる舞台での発表は緊張感もありましたが、学生たち一人ひとりが2年間を振り返り、様々な目的の実験や調理実習、グループで1年間取組んだ給食管理実習、栄養士の仕事の実践を経験した学外実習、ゼミナール等で取組んだ地域活動を通しての学びを自分の言葉で報告しました。

成果報告会は、学生たちの最後のプレゼンテーションの場になります。発表ももちろん大事ですが、準備の時間は、皆で授業時の写真を集め、料理や実習風景の写真を見ながら振り返り、大学での学びを改めて整理する時間、自分の変化・成長を知る大事な時間でした。怒涛のように過ぎた2年間だったと思いますが、ナラサホでの経験や学びを卒業後しっかり活用し、自分のものに磨きあげて欲しいものです。

2022 年度 ベスト・トピックス

ビジネスキャリアコース　吉村　司

ビジネスキャリアコースにおける今年度各回生ベスト・トピックスをご紹介いたします。

まず1回生は2023年2月20日開催の「インターンシップⅡ成果発表会」。平城宮跡内の道の駅、レストラン、カフェにて15名の学生が事前講義では3C、SWOT、4Pの競争分析を基にインタビューシートを作成し施設管理者である株式会社いち屋市川社長にヒアリングと回答を頂戴し、その仮説を基にチーム別に各現場のお仕事を実体験。事後講義では仮説検証および各店舗への提言を発表会で行い先様からは「質問事項の的確さ、若い世代の素直な視線・意見および提案内容の妥当性とプレゼン力」に高い評価を得て、大いにお褒めの言葉を頂戴した。今後の就活や卒業研究に直接生かせる貴重で価値の高い実習となった。また2回生は2023年1月31日開催の「ビジネスキャリアコース　卒業研究公聴会」で各自の研究発表を行い「アイメイクの変化」「乃木坂46とAKB48にはなぜ差が生まれたのか?-SWOT分析から見る2つのグループの違い-」「留学生の退職、転職について-面接法による分析から-」「ゲーミフィケーションの可能性について-面接法による分析から-」「高齢者のスマホの利用について-質問紙調査・面接法による分析から-」等例年以上に個性的なテーマと緻密で真摯に分析、インタビューしたデータを収集し学生各位のリサーチ、分析、アウトプット能力にさらなる飛躍が感じられた。ビジネスキャリアコースは今後も、通常の授業での「リサーチ、スピーチ、ディスカッション、コメント、レポート」のルーティンを大学生基礎力から社会人基礎力へと昇華し、インターンシップや卒業研究などの実習・演習を通じて「自律と個性」を体現するユニークで愛される人材育成にチャレンジして参ります。

オレンジリボン運動実施

こども保育コース　松本　充史

厚生労働省（2021）は、2020年度の児童相談所の児童虐待相談対応件数は、20万5029件と公表しました。前年から1万1249件増え、児童虐待件数は増加の一途をたどっていることがうかがえます。そのような中、少しでも児童虐待に歯止めをかけるためにと地域こども学科６名の学生が“オレンジリボン運動”に参加してくれました。今年は二つの啓発活動を学生たちが考え、11月に実施しました。

一つ目の啓発活動は、将来、子どもの保護者になる若年者（本学学生）に向けてのものでした。児童虐待防止に関するポスターを作成し、1号館エントランス、6号館ホールに設置しました。「オレンジリボン運動ができた経緯」、「児童虐待とは」、「子育てで困った時の相談機関及び児童虐待を発見した際の相談機関」が記されたポスターを多くの本学学生が読んでくれました。

メンバーの学生は、お昼休みに実際にポスター前に立ち、児童虐待防止の重要性について呼びかけを行いました。

二つ目の啓発活動は、奈良市地域子育て支援センター「ゆめの丘SAHO」にて子育て中の保護者に向けてのものでした。ポスター発表を通して児童虐待について考えてもらったり、親子でオレンジリボンを作ってもらったりして共有体験の大切さも感じていただきました。「子育てで息詰まることもある。相談機関が地域にあることを知れたのはよかった」、「子どもとオレンジリボンを一緒に作れて楽しかった」という保護者のお話からも一定の成果を感じることができました。

オレンジリボン運動に参加した、地域こども学科２回生の福井昭成さんは、「今回の活動が、多くの子どもたちの笑顔につながることになればうれしい」と話していました。学生によるオレンジリボン運動を通して児童虐待防止のための手立てを皆で考えることができました。

今後も児童虐待防止の意識を学生と一緒に高めていければと考えます。

小学校教育実習から学ぶ

こども教育コース　樹下　堅

小学校教育実習は４週間もの長丁場で、最終週には実習の集大成としての「研究授業」を行います。しかしながら、他の学生は「研究授業」を参観することができません。そこで今回はゼミナールⅡにおいて「研究授業」を再現する授業を行いました。

指導案を見るのと実際の授業を再現して参観するのとでは、学生の学びが大きく変わります。

一人の学生は４年生道徳の「親切」について考察する授業を行いました。授業の中にロールプレイを取り入れたところから、物語の世界から現実の世界に引き込まれました。板書もよく整理され、授業のねらいがよくわかりました。

もう一名の学生は５年生の国語の「敬語」の授業です。敬語は、尊敬語、謙譲語、丁寧語の３種類があり、なかなか指導が難しい内容です。

研究授業では、学生オリジナルの会話文を用いて「敬語を使わない会話」と「敬語を使う会話」を子どもたちに実際にさせて、その違いについて考察する展開でした。

文字だけではなく、音声にすることで、子どもが直観的に敬語のありなしの違いをとらえられることがよくわかりました。児童役で参加していた他の学生も「なるほど」と授業構成の工夫に感心していました。

来年４月には教壇に立つ学生に向けて、より実践的な取り組みを進めていきます。

学生・キャリア支援センター

スポーツができる喜びを

学生・キャリア支援センター長　上田　利博

学生・キャリア支援センターでは、学生の皆さんが毎日充実した生活を送れるよう学生生活や奨学金、就職活動のサポートをしています。

今年度もコロナの影響により大学祭が中止となってしまいましたが、代わりのイベントとして「球技大会」を開催しました。競技内容は「バレーボール」「ドッジボール」とし、学年、学科・コースに関係なく皆が一致団結して優勝を目指しました。コロナの影響により、身体を動かす機会の減った学生達にとって、久しぶりにスポーツをする機会となり盛り上がった学生達、体が動くか心配になった学生達により休み時間や放課後には練習、練習の日々が続きました。当日はチームごとにハチマキをし、応援団はポンポンを持って、気合十分で勝負が始まりました。

どの競技も白熱した勝負が繰り広げられ、負けたチームでは悔し涙を流す姿もありました。

教職員チームも参加しましたが到底学生に勝てるはずもなく、最下位に終わりました。

障害学生修学支援センター

現状と事例紹介

障害学生修学支援副センター長　高屋　有加

障害学生修学支援センターでは、障害を理由に修学を断念することがないよう、支援を必要とする学生のサポートをしています。

今年度は独立行政法人日本学生支援機構主催の令和4年度「障害学生支援理解・啓発セミナー」での事例紹介の代表校として選ばれオンデマンド配信されることになりました。「奈良佐保短期大学における障害学生支援の現状と事例紹介について」と題し、本学で取り組んできた授業や学生生活、就職活動までの支援内容について紹介させていただきました。

教育支援センターの役割

教育支援センター長　黒川　丈朗

短期大学設置基準第 34条には「短期大学はその事務を遂行するため、専任の職員を置く適当な事務組織を設けるものとする。」と定められています。これを受けて事務局があり、様々な業務を行っていますが、事務を処理するのではなく、設置基準には「事務を遂行する」と規定されています。

本稿では、教育支援センターが遂行する事務について、その役割を簡単に紹介したいと思います。

教育支援センターには、センター長1名、職員3名、計4名の職員がいます。 場所は1号館1階にあり、非常勤講師控室と学生キャリア支援センターの間にあります。日々、学生・教職員が行き交う場所です。教育支援センターが担当する教務系の仕事は、学生が卒業時に身につけていなければならない能力を得るために必要な教育内容（授業科目） を編成した教育課程（カリキュラム）に従って、学生が如何に学ぶかという視点（履修系統）によって、配置された授業科目を時間割という具体的な形にします。

各週の曜日時間が決まると、授業科目ごとの履修人数や授業の内容によって、教室を選び、授業を行う場所の割り振りをします。これで、何曜日、何時限目、○号館○○○教室というように、何曜日の何時にどの教室に行って、授業を受ければよいのかを時間割として学生に明示します。

このように教育支援センターは円滑な教育を実施するために、教務上の様々なルールに従い交通整理を行って集約しています。教育支援センターは、教員と学生にとってのユーザーインターフェースの機能を担っていると言えます。

さらには、学生がそれぞれ履修する授業科目の出欠、レポート課題提出、試験などの学修状況を教務情報システムによって詳細に把握することができます。教員と共に学生の学修状況に応じて saho-navi を運用し、学生にとって大切な連絡を個別にすることがあります。卒業するために必要な単位を修得し、取りたい資格を取得するために、必ず行かなければならない場所なのです。

教育支援センターといたしましては、人と接する仕事であることを基本として、誰に対しても開かれた入りやすい窓口でありたいと思っています。

何よりも教育の質を保証し学生の在学満足度を高めるため、毎日、学生を見守っていますので、よろしくお願いいたします。

第3期中期計画策定に向けて

自己点検評価室長　中田　奈月

今年度、自己点検評価室では奈良佐保短期大学第３期中期計画策定に向けて、取りまとめを行いました。

私立学校法第 45 条の二２項にあるとおり、文部科学大臣が所轄庁である学校法人は、事業に関する中期的な計画を作成しなければなりません。

本学も該当するため、平成 25 年からの第１期、平成 30 年からの第２期の中期計画を策定してきました。今回、令和 5 年４月からの第３期中期計画となります。

これまでの第１期、第２期中期計画の達成状況の検証結果を基に、継続すべき計画は継続し、社会変革の中で、新たに取り入れるべき計画は、追加することを方針とし、中期計画の検討を重ねて参りました。「高い教養と識見を持った社会に貢献する人材を育成する」という開学以来貫かれている精神を基に、「教育活動の充実」、「学生支援の充実」、「大学運営の強化」等の分野について、社会貢献と地域連携を軸にした中期計画を策定しました。

第３期中期計画の進捗状況を定期的にチェックし、問題があれば解決する PDCA サイクルを実行することで、学生が本学に入学して良かった、学生生活は楽しかったと思って卒業してもらえるように、また、豊かな人間性と高い専門知識を身に付け、社会や地域で活躍できる人材の育成を行い、多くの人に認められ、地域にとって欠かせない大学作りを目指します。

情報メディアセンター

データサイエンス

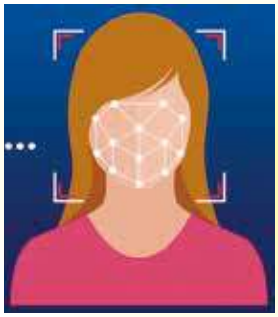
情報メディアセンター長　川﨑　敬二

令和3年に内閣府・文部科学省・経済産業省の3府省が連携し、各大学・高等専門学校における数理・データサイエンス・ＡＩ教育の取り組みに関する認定制度が始まりました。本学も本カリキュラムを導入すべく、昨年度から「情報リテラシー」「データサイエンス」を開講し、また今年度は「データ活用」と「プログラミング」を次々と開講しました。中でも「情報リテラシー」は卒業必修科目とし、今年度認定をめざしています。

データサイエンスは、データに基づいて科学的な分析や予測を行うものです。特に“AI”とは、人間が考えている思考パターンをコンピュータに認識させ、ビッグデータと呼ばれる大量のデータを高速に処理し、結果を導きます。

既に皆さんの身近にデータサイエンスはあります。例えば、オンラインショッピングでは、何もしなくても個人の好みの商品が、過去の検索履歴を分析し、上位の方に表示されています。また、一部の大型施設の入場や PCへのログインは、顔認識機能で個人の特長を高速に処理判断しています。電子レンジでは音声操作や会話によって献立の相談をすると、AI が過去の相談内容や利用状況から、その家庭の好みに合った献立を提案します。また、自動車の自動運行装置も大量のセンサー情報を瞬時に分析し、安全走行を実現しています。

今後、就職先の職場でも AIの導入や、ビッグデータの活用が確実に行われると思われ、その際に対応できるような基本的な知識を学生に対して提供することで、新時代の社会人養成を目指しています。



入試・広報センター

広報活動2022

入試・広報センター長　今西　一盛

高校生人口の減少に伴い、大学や短大にとって厳しい状況が続く中、本学の魅力を発信するための効果的な広報活動について腐心しています。従来のガイドブックや印刷物に少し変化を加え、受験生の興味・関心を惹くものにできないか、ウェブサイトでの発信やオープンキャンパスにも何か趣向を凝らし、印象度や満足度のアップに繋げられないか、日々悩み、足掻いている毎日です。

2022 年度は、広報グッズのひとつであるキャンバスバックを一新しました。コットン素材のナチュラルな白地に花文字風の筆記体で「Nara Saho College Since 1931」と記した、おしゃれな仕立てになっています。このバッグを手にした人たちがさまざまな場面で使用してくれることで、本学の名が広まっていくことを願っています。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中断していた、広報ボランティア学生のオープンキャンパスへの参加を復活しました。学生スタッフが、当日の、受付や案内、誘導、司会、学校紹介などの業務を担ってくれ、参加いただいた高校生らと親しく接してくれることで、明るく楽しい雰囲気づくりに貢献してくれています。さらに、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために縮小されていた、進学関連業者が企画する高校生向けの進学説明会やガイダンスも徐々に復活してきたので、県内外の高校や説明会場に足を運び、本学の案内・紹介に注力しています。本学入学者アンケートによると、志望を固める際の情報源として、ガイドブックやウェブページとともに「本学教職員による高校訪問や説明」をあげる回答も多く、直接、面と向かい合って話すことの重要性を再確認しているところです。

魅力的な広報活動とは、本学の魅力を発信することにほかなりません。小規模な本学の特性を活かし、受験生のニーズや困りごとに丁寧に寄り添うことを基本にして、今後も、試行錯誤を重ねながら、広報活動を進めて参りたいと考えています。

図書館

新しいサービスと変わらないサービスの提供をつづけます

図書館課長　能瀬　澄美

■「文献の探し方・図書館の使い方」講習会

図書館で扱う資料形態は、図書・雑誌・視聴覚資料・インターネット資料・電子書籍と幅広く、様々な情報源の中から正しい情報を得るために、情報の調べ方・情報源の取り扱い方を学生の皆さんにお伝えしています。

今年度も、入学間もない時期に実施してほしいと、教員の方々からの依頼もあり、新入生を対象とした「文献の探し方・図書館の使い方」講習会を各学科・コースごとに実施しました。

■「Maruzen eBook Library」に電子書籍を追加購入しました

昨年度導入した「Maruzen eBook Library」に電子書籍15点を追加購入し、３月末現在、49点の電子書籍を提供しています。学内であればいつでもパソコンや自分の Chromebook から手続きなしで利用することができます。

本学図書館ウェブサイト「蔵書検索」にリンクがありますので、アクセスしてみてください。

今年度は、在籍する学生さんの学習スタイルにもよりますが、昨年度に比して、アクセス数は約２.８倍となっています。

学外から利用する場合は、事前に登録手続きが必要です。詳しくは図書館にお尋ねください。

子育て支援センター

お待ちしています！

子育て支援センター長　和田　公子

奈良佐保短期大学内に奈良市より委託を受けた「子育て支援センターゆめの丘 SAHO」が開設されて、14年目に入りました。

短期大学構内に概ね０～３歳までの乳幼児と保護者が集う子育て広場を開設したのは本学が初めてでした。

本学にとっても奈良市の委託を受けるにあたって、学内の人的・物的環境や資源を活用して、より質の高い子育て支援事業を展開していくために、様々な事業計画を立案し、奈良市からも高い評価を得ました。このことは現在も変わることなく、利用者のニーズに沿った事業を展開しています。

このような状況の中で、２つ取り組みを報告いたします。一つ目の取り組みは、奈良佐保短期大学と、奈良市地域子育て支援センターゆめの丘 SAHO の共催で、７回の「あそびのひろば」が企画され開催されたことです。運動遊び、造形あそび、お話会、おいもほり、人形劇鑑賞など多彩な内容が企画され、どの企画も好評で定員を超える申し込みがあり、参加した親子のはしゃぐ声と笑顔がはじけるひと時になりました。

構内にあるからこそ短大の様々な環境・人材を活用し、連携を取りながら学生の学びを深めると共に、子育て支援センターの利用親子が充実した時を過ごす場になってほしいと願っていた中での素敵な取り組みになりました。

この事業が次年度も継続され、保育者を目指す学生の子育て支援に対する知見を深める機会になれば嬉しく思います。

二つ目は、昨年も実施された「虐待防止月間」での有志学生と教員の取り組みです。

「ゆめの丘 SAHO」のひろばで、保護者に向けての学生からの講座は珍しく、前に立つ学生も、耳を傾ける保護者も少し緊張しながらも真摯にその内容を共有することができました。

その際、男子学生が披露してくれた体操を、後日もう一度やりたいから機会を作ってほしいの申し出があり、「パパと遊ぼう」の内容に組み入れました。いずれパパになるだろう期待も込めて、パパ予備軍として参加してもらい、楽しい体操を一緒にやりました。

子育て支援センターがこの場所にあることは知っていても「～させてください」や「見学させてください」の声はめったにかかりません。

どうぞ気軽にドアを開けてください。そして雰囲気を味わってください。お待ちしています。

あそびのひろば「運動遊び」

あそびのひろば「おいもほり」

「虐待防止月間」学生発表

パパたちと一緒に体操

地域・国際連携センター

３年ぶりの交換留学生

地域・国際連携センター　中島　幸大

奈良佐保短期大学では、中国の大連大学・閩南師範大学との交換留学の協定を結んでおり、毎年各大学から、本学でしか学べない事や日本の文化を体験するため来ています。

しかし、2020年度からコロナ禍の影響を受け、出入国すらもままならない状況となってしまい、日本へ留学する機会がなくなってしまいました。それから2年後、規制緩和により、留学生3名（大連大学3名）を迎え入れることができました。

初めての留学や慣れない異国の地、コロナ禍における制約の日々の中で、留学生とともに我々、教職員も一緒に頭を悩ませ新学期がスタートしました。

前期が終了する頃には、大学や日本の生活にも慣れ、日本でしか体験できないようなことはもちろん、大学でのイベントやボランティアにも積極的に参加してくれました。

その中で、留学生と会話をしていくと、3名とも「感受性豊かで、その感情を言葉に乗せることが上手」と感じることができました。

過去にも本学に在籍している留学生と交流する機会が多く、その度に“外国人の目に映る日本”というものを考えさせられてきました。生まれた時から日本に住み、当たり前だと思っていたことが海外から来た人たちにとっては新鮮で刺激的なものであると改めて思い直しました。

留学生3名は、留学期間終了後はそれぞれ別の道を歩んでいきます。1年間という短い間でしたが、その間に得たことを糧に突き進んでいく姿を、奈良の地で応援しています。

防災・環境委員会

地域防災避難訓練 2022

防災・環境委員長　飯田　晃朝

2018年9月に初めて実施した奈良佐保短期大学地域防災避難訓練も、本年度で5回目となりました。前回に引き続き、コロナ禍でも災害が起き、避難せざるを得ない状況になることから、感染に配慮した地域防災訓練を実施しました。

本年度も消防署や自衛隊の方々をはじめ、地域の消防団の皆様、過去の訓練から関係を築いてきた様々な各種団体にご協力を頂きました。

また、奈良市消防局に起震車を依頼し、参加者に地震の体験をしてもらうことが出来ました。そしてドクターヘリも飛来しました。記憶に新しい奈良で起こった痛ましい事件でも利用されたことで、参加者の関心が大きかったです。奈良佐保短期大学がそのランデブーポイントとなっていることで、学生たちも地域の防災の一端を担っているとの自負を感じる事ができました。

学生達の取り組みは、それぞれの学んでいる専門分野の特色を活かした内容になります。ビジネスキャリアコースは避難者の受付や防災アプリのスマホ講習会、生活福祉コースはエコノミー症候群解消体操や応急担架の体験等、食物栄養コースは、備蓄防災食のアレンジレシピの展示や炊き出し訓練等、地域こども学科は避難してきたこどもたちに向けての手遊び教室などです。

コロナ禍となり学外の方々と直接接する機会が減った中で、参加した学生たちは良い経験となりました。

このような地域住民を交えた産官学による共同の防災への取り組みは、他の地域でも注目されています。今回はそれぞれの地域の防災を担ってらっしゃる方々に多くご参加していただきました。しかし、地域住民の代表の方からは、徐々に参加意識や防災意識が低下しているとのご指摘をいただきました。改めて、日常的に継続して人々の防災意識を高めることの難しさを実感しています。

奈良佐保短期大学では今後も引き続き、地域住民の方々と協力して、地域防災避難訓練を実施する予定です。

地域に住む方々、学んでいる学生、協力してくださる関係団体、そして奈良佐保短期大学にとってふさわしい取り組みになるように、これからも学校全体で取り組んでいきたいです。

学食のあり方

市川　真由美

お昼休み、お昼の配膳の数分の中の会話に悩み事を打ち明けてくれたり、楽しかったことやこれからの試練の不安な気持ちをつぶやいたり、まるで親子のような時間です。

「あーおなかいっぱい！お昼からも頑張れる！」毎日のようにそう言って昼からの授業に挑む学生さん。

学年末には就職が決まったことの報告があったりします。

学食のおばちゃんの努力の一つは、取れすぎたＳＡＨＯファームの野菜を毎日姿を変えて提供すること。ゲームの様に楽しんで料理をします。

鹿野園は学食を食べるだけの施設ではありません。いつだったか学食で『大根プロジェクト』を企画。農家さんから相談を受け、売物にならない不格好な400本の大根を生徒さんと、民間団体とで協力し合い切干大根にしてフードバンクにお届けもしました。

みんなでバケツリレーの様に大根の運び込みから始まってすべての大根のカット作業。単純作業が苦手な生徒さん、それをカバーに回る生徒さん、終始賑やかにボランティア。力を合わせた結果の充実感はとてもいい思い出となりました。

「あれ食べたい。これ食べたい。」

多くの世間一般的な家庭で聞かれるこの会話が出来ないでいる学生さんがいるかもしれない。それは人に言えない家庭環境であったり、単身下宿生活のせいだったり。

その食べる事の楽しみつくりの為に、学食のおばちゃんは毎日ご飯を作ります。

試食会から生まれた学生とのつながり　～農園野菜を通して～

レストラン事業部　大塚　珠美

現在、学内レストラン『鹿野園』では、学内農園『夢の丘 SAHO ファーム』で収穫した野菜で作った料理の無料試食会を月 1 回程度開催しています。試食会の目的は大きく分けて 2 つ。野菜や調理に興味を持ってもらうことと、普段レストランを利用しない学生にも足を運んでもらいレストランの利用に繋げることです。

きっかけは普段は捨ててしまう人参葉でジェノベーゼソースを作り、レストランで試食してもらったことでした。あえて材料は言わず、どんな野菜で作ったかクイズにしたことで自然と学生との会話が生まれ、楽しい試食会となりました。

その後も誰でも簡単に美味しく作れ、なおかつ、面白みのある一品を心掛けて紹介してきました。青ネギを使ったソース味の『関西風ケークサレ』を食べた学生とはお好み焼きの話で盛り上がり、実家では里芋をお好み焼きに入れると教えてくれました。『春菊のフローズンヨーグルト』の時は「春菊の代わりにパクチーで作っても面白いのでは」と提案してくれる学生もいました。最近では用意した食数が足りなくなる回も出始め、学生から「今日は何？」「次はいつ？」と声を掛けてくれるようになり、普段レストランで食事をしない学生の顔も見かけるようになりました。

食に関わる場面では、世代や立場に関係なく笑顔が生まれやすいものです。この試食会もコミュニケーションの場のひとつとなれば嬉しく思います。

自分なりの介護観

生活福祉コース２回生　清水　春高

私は２年間の学校生活を通して「利用者に自然に寄り添い、困ったときにそっと手を差し伸べたい」という自分なりの介護観を形成しました。この介護観に至るまでに、様々な講義や実習を通して学習しましたが、中でも高齢者施設での実習は、私の介護観に大きな影響を与えました。

介護実習に行った特別養護老人ホームで行われていた支援は「これまでの暮らしを守るためのもの」であるという考えに基づいており、深く共感しました。また、今年度から始まったチームマネジメントという講義も面白かったです。チームマネジメントでは、介護福祉士としてチームで働くための能力を養うほか、キャリア開発についても学ぶことができます。さらに、外部の施設や団体から来られたゲストスピーカーの講義では、それぞれの立場からみたチームマネジメントについて学ぶことができました。

これから私は、介護施設で働くことになります。奈良佐保短期大学で学んだことや介護観を大事に、立派な介護福祉士として活躍したいと思います。

2年間を振り返って

食物栄養コース２回生　小西　充璃亜

私は食物栄養コースで沢山のことを学び、経験しました。

大自然に囲まれた大学の畑では、旬の野菜に触れ、珍しい野菜に出会いました。調理実習では色々な料理を調理して、試食をすることで、苦手だった食べ物もいつの間にか食べられるようになっていました。

栄養について学ぶ授業では、栄養以外に食事バランスなどを知り、普段の食生活で意識することが増えました。給食管理実習では、食べて下さる方全員が喜んでもらえる料理を提供することの難しさ、提供時間に間に合うことの大切さなどを知りました。

栄養士は栄養の良い献立を作成するというイメージが強いですが、それだけでなく、調理面や食事を提供する方への配慮もしなければいけないことを学びました。

私は自分が成長したという実感が湧いたことがありません。ですが、この２年間を振り返ると、栄養の知識は勿論、調理の技術面やコミュニケーション能力などが身に付き、今まで避けていたことに挑戦してみたりと、初めて成長したという実感があります。

奈良佐保短期大学に入学していなかったら、こんなに良い経験は出来ていないと思うので、色々な事を教えて下さった先生方や、素敵なクラスメイト、そしてこの経験を忘れず、卒業後も成長し続けて行きたいと思います。

ビジネスキャリアコースで学んだこと

ビジネスキャリアコース２回生　薮内　志茄

私は奈良佐保短期大学に入学するまで、人前で話すことがとても苦手でした。自分の言葉や意見に自信を持って発言することができず、自分の言ったことが間違っているのではないかと感じていることが多くありました。そのため、授業の最初にある1分間スピーチの時間はとても苦痛に感じていました。しかし、発表する機会が多くあったため、徐々に話すことができるようになりました。

また、昨年の1月にはラジオに出演しました。人前で話すというものではありませんでしたが、目の前に伝える人がいないからこそ、声だけでどのように分かりやすく丁寧に伝えるかがとても苦戦しました。最初の頃は出演すらしたくないと感じていましたが、現在はこのような機会があったからこそ、話すことへの苦手意識が自身へと変化していった大きな出来事であったと感じています。

このように入学前と入学後では、苦手をきっぱりと克服できたわけではありませんが、１回生から積み重ねてきたおかげで、少しは自身を持って人前で話せるようになりました。就職先でも日々の積み重ねを忘れず、このコースで学んだ知識を活かしていきたいと思います。

1年間の学び

こども保育コース１回生　濱野　萌

私がこの１年で１番力を入れて取り組んだのが実習です。初めての実習では緊張と不安でいっぱいでしたが、園の先生方や大学の先生方が様々なアドバイスを下さり、徐々に子どもと自分から積極的に関われるようになりました。

また、初めの日には見えなかった保育者の関わりの意味や子どもが何を伝えたくて声をかけてくれているのかなどを考えられるようになり、より実りのある実習にすることが出来ました。

私は約１年間奈良佐保短期大学で勉強をして、保育に関する基本的な知識、音楽技術、保育実践力など様々なことを学びました。ですが正直、課題は沢山出ましたし、入学してから初めてピアノに触れるという本当に初心者からのピアノスタートで練習がしんどいときもありましたが、それでも頑張れたのは本校の要素でもあるほっとかない教育で先生方が様々なサポートをしてくださったおかげだと思っています。

残り１年間、まだまだ資格取得のために勉強は続きますが先生方のサポートを受けながら自らのスキルを磨き上げられるように頑張りたいと思います。

この２年間を振り返って

こども保育コース２回生　島森　葵

私は保育者になるために、三重県から奈良佐保短期大学に進学しました。入学してすぐは、知り合いもおらず、不安に感じることも多くありました。しかし次第に、クラスメイトと同じ目標に向かって共に努力していくことで、あっという間に２年間が経ちました。

保育者となるために、様々な講義を履修し、課題や定期テストをこなしたり、実習に行かせていただいたり、就職活動をしたりと本当に忙しい毎日でした。大変なこともたくさんありましたが、この２年間で保育者としてはもちろん人としても成長することができたように感じます。そして、特に私自身が成長したと感じることは、粘り強く努力する力です。

実習施設で一日実習をさせていただいた際は、子どもに楽しんでもらうために私ができることは何があるのかを考え、指導案を何度も練り直したり、事前準備に力を入れたりと自分にできる努力を最大限に行い、終えることができました。そして、子どもが降園する際に「楽しかった！」と笑顔で言ってくれた時は、これまで努力し続けて本当に良かったと感じました。

奈良佐保短期大学での様々な経験を活かし、子どもの笑顔を引き出せる保育者となれるようこれからも努力していきたいです。

仲間の大切さ

こども教育コース２回生　三木　志織

私は、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭の幅広い年齢の子どもについて勉強したいと考え、こども教育コースを選びました。

２年間で３つの資格を取得することは、簡単なことではありませんでした。課題も多く、朝から夜まで授業があり、土曜日も授業が続く日々で、何度も投げ出したくなることもありました。しかし、学校に行くと教育コースの仲間と支え合いながら、楽しく過ごすことができ、ここまで来ることができました。

授業以外にも実際に子どもたちと関わることができる実習を経験しました。

別々の実習先でも、お互いに励まし合い、支え合う仲間がいたことで、前向きに実習に臨むことができました。さらに、自分から積極的に行動したことで、実習先の子どもたちと心を通わすことができ、より深い学びに繋げることができました。

こうして、授業も実習も支え合うことができたおかげで、採用試験に合格し、公立の園で働くことが決まりました。

一緒に学んできた仲間は、良き相談者であり、良きライバルでもありました。互いに切磋琢磨しあいながら、私自身たくさんの刺激をもらって、成長することができました。

留学生の声

交換留学生としての1年

大連大学　4回生　王　純（オウ　ジュン）中国

私は、交換留学生として2022年4月に日本に来ました。大連大学では、日本語専攻に所属していますが、来たばかりの時は、言語と生活のことについて知らなかったこともありました。でも、先生方とクラスメイトの皆さんはとても優しく、勉強も生活のこともいろいろと教えてくださりました。

地域・国際連携センター担当の杉原先生は奈良に着いたばかりの私を迎えに来ていただき、優しく私の世話をしてくださいました。先生は、キッチンの鍋から学校の時間割表まで、さまざまなことを教えてくれ、用意してくれました。休日も私たちの生活を気にかけていて、奈良の伝統的なイベントや行事などをいろいろ紹介してくれています。本当にありがたいです。

そして、奈良佐保短期大学では面白くて、役に立つ授業が設けられています。生活未来科食物栄養コースに所属しているので、さまざまな食についての授業があります。自分で料理を作る調理実習から、畑に食べ物を植え、収穫する食育実践演習まで、いろいろな授業があり勉強になりました。

このように実践授業がありますので、食物栄養学について、より一層理解を深められました。食物に関する授業以外にも、奈良の伝統文化や情報学についての授業もありますので、楽しい学生生活をしています。

日本に来る前は、いろいろなことを心配していましたし、この交換留学生の機会を諦めるかをずっと考えていました。私は日本語喋れるか、日本の生活に慣れられるか、友達ができるかという考えがありました。でも、日本に来て、皆さんに会って、本当に良かったです。ここでの留学生活が楽しいですので、続けて進学して、日本で生活したいです。

これからもいろいろ新しいことを勉強し、頑張っていきます！

生活福祉コースでの学び

生活未来科　生活福祉コース1回生

RANAWAKA ACHCHI KANKANAMGE HIRUSHI PRIYANJALA

（ラナワカ　アッチ　カンカーナムゲー　ヒルシ　プリヤンジャラー）スリランカ

早いもので、私が日本に来てから2年以上が経ちました。はじめの1年間は日本語学校に通い、日本の文化などについて学んでいました。

現在は、奈良佐保短期大学の生活未来科生活福祉コースで介護福祉について勉強しながらデイサービスのアルバイトをしています。

入学する前は、自身の日本語能力や日本人とともに勉強できるかなど様々な不安がありましたが、今では日本人の友人もでき、充実した毎日を送っています。

講義では、高齢者に多く見られる疾患や障害など深く学ぶことができました。他にも、生活支援技術の演習で移動・移乗や食事介助等の技術を身につけることができました。

学外実習も経験でき、介護は身体だけの介助ではなく、心身ともに介助する必要があること、利用者の方々が穏やかな毎日を送れるようにすることだと実感することができました。

これから卒業まで、まだ長い道のりがありますが、毎日頑張っていきたいです。

学友会

地域こども学科　保育コース　2回生　吉村　優香

私が学友会会長を務めてから、初めて行った行事は新入生歓迎会です。先輩が卒業してすぐ新学友会役員での活動で不安もたくさんありましたが、役員やサポートの人も含め全員で集まって会議を行い、宝探しゲームを開くことができました。

まだ、新型コロナウイルスが流行している中、行事を1つ行うことがとても難しくはありましたが、それに配慮しながら様々な目線から意見を出し合い、試行錯誤を何度も重ねました。

事前準備から当日までたくさんの人の力をかり無事に成功させることができました。

ここ２年間、新型コロナウイルスの流行もあり、学園祭を開くことができませんでしたが、１０月には球技大会を開催する事ができました。コロナウイルスの感染防止対策を行いながら、みんなで楽しむことができました。また、学年や学科の違う人と交流できるよい機会にもなりました。

私たち学友会は、学生生活を充実したものにできるよう、様々な行事の案やイベントを考え、良い思い出をつくれるよう活動しています。

行事数は多くはありませんでしたが、昨年度よりは行事を開催することができました。

来年度は大学祭や学友会行事等の様々なイベントができるよう願ってます。

2022 年度　学長賞

「マーマレードアワード」受賞について　生活未来科　食物栄養コース2回生　杉井　理恵

ダルメイン世界マーマレードアワード&フェスティバル日本大会アマチュアの部 －学生のマーマレード－ でベスト・カテゴリー賞を受賞することができました。

１回生の春季休業中に課外活動として有志５人で取り組み、４月の出品に向けて試作を何度も繰り返しました。最初は軽い気持ちで始めたマーマレード作りでしたが、いつの間にか本気で夢中になって作業に取り組んでいた時のことを今でも思い出します。

私たちはマーマレードを作ること自体初めてだったので、まずはマーマレードの定義や原材料にする文旦の特徴を知ることから始まりました。その他、材料の割合、酸味や糖度、苦味のバランスを考えたり、保存瓶の殺菌や脱気など数々の課題に直面し、毎回が試行錯誤の連続でした。

また、コロナ禍で全員揃って活動をすることができない日もあり、出品が締切間近になったりと大変なことがたくさんありました。

しかし、いつも近くでアドバイスをしてくださった先生方をはじめ、私たちに関わるたくさんの人たちがサポートをしてくださったおかげもあり、みんなで力を合わせて活動に取り組むことができたのだと思います。

この活動は私たちに、目標を持つことや知識を身につけること、仲間と協力し合うこと、そして諦めないこと、他にもたくさんの大切なことを教えてくれたように思います。卒業後は、周りから信頼される栄養士になれるよう、今後もたくさんの知識や技術を修得していきたいと思います。

ＦＤ推進委員会

学修成果に関する調査とその活用

自己点検評価室月長　中田　奈月

学生の皆さんが前期・後期に回答している「学修成果に関する調査」は、どのような目的で実施され、どのように活用されているかご存じですか。

学修成果に関する調査は、奈良佐保短期大学自己点検評価室にある FD 推進委員会によって実施されています。

FD（Faculty Development）とは、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称のことです。学修成果に関する調査のほか、公開授業や授業検討会、FD 研修会等、教員による教育活動の質的向上や発展に関する様々な活動を行っています。

学修成果に関する調査は、大学の建学の精神と教育理念に基づいて策定された学修成果の目標の達成度合いを測るものです。年２回、前期・後期が始まる前に、GPA スコアとともに学生の皆さんにスコア平均がフィードバックされます。

授業目標の達成度合いを知ることで、授業への取り組みを振り返り、次へとつなげるきっかけになっていると存じます。

それは教員も同様です。教員は、学生の皆さんの学修成果の達成状況をみながら授業目標の達成状況を自己点検・評価し、自分自身の授業活動の取り組みの見直しやシラバスの見直し、さらには授業科目の存置や他科目との統合･調整など、カリキュラムの改善等を行います。

今年度からティーチング・ポートフォリオの本格的活用もはじめました。ティーチング・ポートフォリオとは、大学教員が自身の教育活動について授業実践や指導の記録を、根拠資料とともに目に見える形でまとめた教育業績記録をさします。

教育業績の根拠資料になる学修成果に関する調査は、ティーチング・ポートフォリオとのマッチングに使用し、授業改善に活かされます。

授業は教員と学生がともに作り上げていくものです。自己点検評価室は、学生の皆さんと教員が共に学びあう視点から授業改善へつなげられるよう、次年度へ向けて努力していきます。

ＳＤ委員会

ＳＤ活動の目的を再確認する

SD 委員長　黒川　丈朗

SD 活動は staff development すなわち大学教職員の能力開発向上のために必要な研修であります。

改めて短期大学設置基準を紐解くと「第３５条の二　短期大学は、当該短期大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運用を図るため、その職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力を及び資質を向上させるための研修（FD を除く）の機会を設けことその他必要な取組を行うものとする。」と規定されています。このことは事務職員だけではなく、大学運営に関わる教職員すべてを対象としています。

奈良県内の１８歳人口の減少に加え、県外進学者が多いことなど、大学を取り巻く現状は極めて厳しい状況にあります。本学を選んで入学した学生の在学満足度を向上させることが最も重要であります。在学満足度は教育効果として身に付く能力だけではなく、一日の大半をキャンパスで過ごす学生にとって教職員の対応が大きなファクターを占めることになります。

大学教職員に求められる意識や能力として、一人ひとりの学生に向き合うことが求められています。特に事務職員は、学生さんや君ではなく、○○さんと名前で呼ぶことだけでも、大学対学生から、人間同士の関係に変化します。意識ひとつで可能な対応です。また、大学教職員は、ときに進路変更など学生の人生を左右する場面に直面することがあります。常に学生の人生に関わる重さを意識し責任を持って対応する姿勢が必要です。いつも見ている学生の成長や笑顔を感じることが、人に関わることを生業とする大学教職員のやりがいであると思います。

ＳＤ活動が目的とする本学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運用が、学生の満足度向上に繋がるものでなければなりません。

令和４年度は、中長期計画の策定、FD活動や情報セキュリティ関連など自己点検評価室との合同開催の研修を実施しました。社会情勢の変化への対応や法定事項への対応が大切であることは言うまでもありません。

人と対面する分野の教育を行う短期大学として、大学教職員が学生の対人基礎能力を向上させるためのお手本にならなければなりません。

令和５年度は、学生と日々接する中で感じていることを改善するため、学生目線で教職員に求められている知識や対応能力のスキルアップを図っていきたいと思う次第です。

2022年度　奈良佐保の取り組み

4月	4日	入学式
	5日～6日	オリエンテーション
	7日	授業開始
	12日	公務員試験対策講座①
	17日	第1回オープンキャンパス
	19日	公務員試験対策講座②
	26日	公務員試験対策講座③
	30日	介護職員初任者研修
5月	1日	ミニオープンキャンパス
	3日	介護職員初任者研修
	7日	介護職員初任者研修
	14日	第2回オープンキャンパス
		親子クッキング食物栄養コース
	15日	介護職員初任者研修
	17日	公務員試験対策講座④
	18日	公務員試験対策講座⑤
	22日	介護職員初任者研修
	24日	公務員試験対策講座⑥
	25日	公務員試験対策講座⑦
	28日	介護職員初任者研修
	31日	公務員試験対策講座⑧
6月	1日	公務員試験対策講座⑨
	5日	第3回オープンキャンパス　ピアノ無料講習会　一人暮らしツアー
		あそびのひろば「親子で運動あそび」
	18日	ミニオープンキャンパス
	19日	介護職員初任者研修
	23日	お仕事相談会
	25日	介護職員初任者研修
7月	3日	介護職員初任者研修
	9日	第4回オープンキャンパス　ピアノ無料講習会　一人暮らしツアー
		あそびのひろば「作ってあそぼう」
	10日	介護職員初任者研修
	17日	第5回オープンキャンパス　ピアノ無料講習会
8月	4日･5日	介護職員初任者研修
	6日	第6回オープンキャンパス　ピアノ無料講習会
		あそびのひろば「夏のおたのしみ」
	7日～11日	介護職員初任者研修
	20日	介護職員初任者研修
	20日～21日	やまと鉄道まつり出展（全学）
	21日	第7回オープンキャンパス　ピアノ無料講習会　一人暮らしツアー
		あそびのひろば「おはなしのひろば」
	26日･27日	介護職員初任者研修
	30日	介護職員初任者研修
	31日	奈良県立磯城野高等学校ヒューマンライフ科　入浴体験実習
9月	2日	介護職員初任者研修
	4日	第8回オープンキャンパス
	10日	自主的活動評価入試
	15日	卒業式
	16日	学内避難訓練
	18日	「竹あかり」イベントに参加（場所:学内）
	20日	公務員試験対策講座⑩
10月	1日	地域防災避難訓練
	15日	自主的活動評価入試･総合型選抜（体験･面談）
		入試･社会人入試･外国人留学生入試（国内）
	22日	奈良佐保短期大学　球技大会
		ミニオープンキャンパス
	23日	ミニオープンキャンパス
	28日	ハロウィンイベント
11月	6日	第9回オープンキャンパス
		あそびのひろば「農園でおいもほり」
		帯解駅にぎわい市出店（食物栄養コース）
	12日	第2回あそびのひろば（地域こども学科）
	18日	大人のオープンキャンパス
	20日	福祉施設との交流会 （生活未来科:生活福祉コース）
	26日	学校推薦型選抜（公募）1期･学校推薦型選抜（指定校）･ 総合型選抜（面談）入試･社会人入試･外国人留学生入試（国内）
12月	4日	里親の会クリスマス会
	7日	保育･教職実践報告会①
	10日	第10回オープンキャンパス　ピアノ無料講習会
		あそびのひろば「人形劇団がくるよ!」
		ミ･ナーラ　イベント　ビジネスキャリアコース
	14日	保育･教職実践報告会②
	16日	大人のオープンキャンパス
	18日	生活未来科　入学前体験授業
	21日	保育･教職実践報告会③
	22日	クリスマス会
	23日	生活未来科生活福祉コース「事例研究発表会」
	27日	事例研究報告会　生活福祉コース
1月	11日	食物栄養コース2回生「給食管理実習報告会」
	12日	食物栄養コース2回生「学外実習報告会」
	14日	自主的活動評価入試･学校推薦型選抜（公募）2期･ 総合型選抜（面談）入試･社会人入試･外国人留学生入試（国内）
	16日	ぜんざいを振る舞う
	20日	大人のオープンキャンパス
		地域こども学科成果発表会
	28日	第11回オープンキャンパス
	30日	留学生茶道体験
		学友会臨時総会
	31日	生活未来科ビジネスキャリアコース卒業研究発表会
2月	5日	生活未来科　成果報告会「オンライン開催」ならまちセンター
	11日	一般選抜･総合型選抜（面談）入試･ 社会人入試･外国人留学生入試（国内）
	12日	ミ･ナーラ「バレンタインフェア」に食物栄養コース出店
	19日	第7回公開講座「冬野菜とだしを味わう」
		第12回オープンキャンパス
3月	6日	一般選抜･総合型選抜（面談）入試･社会人入試･ 外国人留学生入試（国内）
	18日	卒業式･謝恩会
	25日	第13回オープンキャンパス
	26日	「絵本のひろば IN 南都」に参加（地域こども学科）

新聞掲載①

令和4年4月5日（火） 奈良新聞

学生の本分尽くす

奈良佐保短大で入学宣誓式

新入生110人 新たな一歩

令和4年5月21日（土） 奈良新聞

甘酸苦味のバランス追求

佐保短大生が受賞

ゆでこぼし時間研究

令和4年5月22日（日） 奈良新聞

「生の声」議員へ

奈良市会、3年ぶり対面で報告会

市内3大学の34人参加

質問交え意見交換も

令和4年5月28日（土） 奈良新聞

親子クッキング

おまかせろう

食育フィールドゼミ

学生が説明、サポート

令和4年8月11日（木） 奈良新聞

佐保短大でNPO代表・市川さん講演

心に寄り添う支援を

無戸籍者の現状を解説

令和4年11月15日（火） 奈良新聞

親子で楽しむ場 学生ら企画考案

奈良佐保短大「あそびのひろば」

令和4年11月21日（月） 大学新聞掲載

奈良佐保短大で福祉交流会

手製ランチ提供やレクリエーション

令和4年12月5日（月） 奈良新聞

奈良佐保短大

一緒に遊んで笑顔

児童らとクリスマス会

奈良市鹿野園町の奈良佐保短期大学（北内ますみ学長）で4日、毎年恒例のクリスマス会が開かれた。県里親会（松井恵光会長）の子どもたちと保護者約70人が、同大学地域こども学科の学生と一緒に一足早くクリスマス気分を味わった。

保育士や幼稚園教諭などを目指す学生に、子どもたちとのコミュニケーションの取り方などを学んでもらおうと約10年前から実施している。

松井会長が「短い時間ですが全力で楽しみましょう」とあいさつ。じゃんけんやビンゴゲーム、ボールリレーなどを一緒に楽しみ、サンタやトナカイに扮した学生から子どもたちにプレゼントが手渡された。最後は全員で「ジングルベル」などのクリスマスソングを合唱。会場は子どもたちの笑顔であふれた。

司会などを務めた同学科2年の西口柃那さん（19）は「不安もあったがスムーズに進行できたし、子どもたちの反応も良くて楽しかった。甘えてくれる子もいてかわいかった」と話していた。

子どもたちにクリスマスプレゼントを手渡す地域こども学科の学生＝4日、奈良市鹿野園町の奈良佐保短期大学

令和4年12月11日（日） 毎日新聞

あたたかな聖夜を――

奈良佐保短大生ら 飾り作り指導

奈良佐保短大の学生（右）と一緒に写真を貼ったリース作りに挑戦する子ども＝奈良市二条大路南1のミ・ナーラで

奈良佐保短大（奈良市鹿野園町）は10日、奈良市の商業施設「ミ・ナーラ」で、クリスマス用の飾りなどを作るワークショップを開いた。ビジネスキャリアコース1年の授業の一環で、企画・運営した学生13人に教えてもらいながら真剣な表情で飾りを作る子どもらの姿がみられた。

「世界でいちばんあたたかい日」がテーマ。包装紙や画用紙を使ったリース作りや折り紙のベル作り、牛乳パックでのデコレーションなど手作りにこだわったといい、学生らが作ったクッキーなども販売した。

牛乳パックの紙ランタンに雪の絵などを描いた同市の小学2年、阪口凪紀さん（7）は「工作が楽しかった。クリスマスが楽しみ」と笑顔。中心的に企画した同短大1年の森本優月さん（19）は「家族で参加してそれぞれの楽しみの内容を考えた。あたたかさを感じてもらえればうれしい」と話していた。【稲生陽】

令和4年12月28日（水） 奈良新聞

奈良佐保短大

実習での学び報告

卒業研究発表会

令和5年1月17日（火） 奈良新聞

佐保短大で「仕事キャラバン」

福祉介護の魅力学ぶ

事業所職員らと交流も

令和5年3月19日（日） 奈良新聞

113人、旅立ちの春

奈良佐保短大で卒業式

令和5年2月6日（月） 奈良新聞

学生ら研究成果披露

3年ぶり「研修会」「生活未来科成果報告会」

植村牧場の黒瀬さんの講演も

奈良佐保短大

2023年度入試（2024年度入学生対象）

入　試　種　別	
自主的活動評価入試	高等学校等における校内外での自主的な活動の実績を評価する入試です。
総合型選抜（体験）	就きたい専門職にかかわる授業を体験し、そこでの努力する姿勢や意欲、コミュニケーション能力を評価する入試です。
総合型選抜（面談）	希望資格や学びたい内容が本学の教育内容と一致しているかなどについて、志望学科の教員とじっくり話し合い、受験するかどうかも含めてともに考えていく入試です。
学校推薦型選抜（指定校）	本学が指定する高等学校長の推薦により、選考試験を実施する入試です。
学校推薦型選抜（公募）	高等学校長の推薦により、選考試験を実施する入試です。
一　般　選　抜	学力試験及び面接試験により、合否を判定する入試です。
社　会　人　入　試	入学時に満20歳以上の人を対象とする入試です。
外国人留学生入試（国内居住者用）	日本在住の外国人を対象とする入試です。

2023年度　オープンキャンパス

日時　いずれも午前10時～

2023. 4. 29 土
5. 13 土
6. 4 日
6. 17 土
7. 9 日
7. 15 土
8. 5 土
9. 16 土
7. 15 日
11. 5 日
12. 9 土

2024. 1. 27 土
2. 18 日
3. 23 土

学校を体感しよう！

Open Campus
Narasaho Callege

2023年度　大人のオープンキャパス

日時　午後6時～午後8時

2023. 11.17 金
12.15 金
2024. 1. 19 金

場所　本学

☆予約不要

※ウェブで申込みをされた方にはステキなプレゼントあり！

奈良佐保短期大学　〒630-8566 奈良市鹿野園町806番地　TEL 0742-61-3858㈹　FAX 0742-61-8054
E-mail info@narasaho-c.ac.jp　ウェブサイト http://www.narasaho-c.ac.jp

★内容に訂正・変更がある場合は、本学ウェブサイトに公表します。